

## 第 11 回 地域肝炎治療コーディネーター教育セミナー

日時：平成 28 年 5 月 12 日（木）18：30～20：00

場所：ホルトホール大分 3 階

テーマ：「進歩を遂げた肝炎治療を届けるために」

総合司会：大分大学医学部附属病院 消化器内科 織部淳哉 先生

**話題提供 1（20 分） 座長：大分大学医学部附属病院 消化器内科 織部淳哉**

**「肝炎治療の最新情報」演者：大分医療センター 消化器内科医長 山下勉 先生**

ここ 1～2 年の間に C 型肝炎の治療はインターフェロンを中心とした治療からインターフェロンフリーの内服薬のみの治療に大きく変化した。

インターフェロンフリーの内服治療はこれまでの治療と比較し、副作用が少なく、抗ウイルス効果は高いといわれている。当院でインターフェロンフリーの治療を導入した症例を紹介する。

現在 1 型の C 型肝炎ウイルスに対する治療薬としてはダクラタスビル・アスナプレビル

、ソホスビル・レジパスビル、オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビルの 3 種類があり、耐性ウイルスの有無や心疾患の有無、腎機能障害の有無等を考慮し薬剤を選択している。2 型についてはソホスビル・リバビリンのみである。

いずれの薬も抗ウイルス効果は良好で、問題となるような副作用もほとんど認められていない。

今後の課題として、透析患者への治療や非代償性の肝硬変の方への治療、また、治療後の発癌の問題などがあげられる。

**講演（20 分） 座長：大分大学医学部附属病院 消化器内科 遠藤美月 先生**

**「今こそ、たたけ！ 肝炎ウイルスと肝炎シールの意義について」**

**演者：大分大学医学部附属病院 消化器内科 本田浩一 先生**

B 型・C 型慢性肝炎ウイルスに現在感染している者は、全国で合計 300-370 万人と推計されており、国内最大級の感染症です。平成 22 年に肝炎対策基本法が制定され、肝炎ウイルス無料検査や治療助成制度が始められましたが、検診を受ける者が少ないことや、ウイルス検査が陽性であっても適切な治療に結びついていないことが問題となっています。

大分大学における C 型肝炎経口抗ウイルス薬治療者へのアンケート調査から、大学病院で治療を受けた患者さんの多くは、かかりつけ医あるいは大学の主治医から勧められて、治療が導入されているという状況が明らかとなりました。医師から治療についての説明を受けたにもかかわらず、治療前に不安を感じている患者さんが多いということもわかりました。これらのことより、肝炎患者さんが適切な治療を受けるために

は、肝炎に関する情報を得るだけでなく、医師から治療に関する説明を受けることが重要と考えられました。

現在、大分県では大分市、別府市、中津市において C 型肝炎抗体検査陽性者に対し、「たたけ！肝炎」リーフレットを郵送し、医療機関への受診や肝疾患相談センターへの相談を呼びかけています。また、大分県内の全ての診療所に C 型肝炎治療患者説明用「たたけ！肝炎」リーフレットを配付しました。肝炎検査を受けたことがあっても、自身の肝炎検査の結果について知らない人が多いことも、大きな問題点と考えられます。そのため、薬剤手帳添付用肝炎シールを作成し、今後、薬剤師会と連携して患者さんに配布していく予定です。

現在、B 型肝炎、C 型肝炎とも副作用のほとんどない薬で、高率に治すことができるようになりました。治療を要する人が適切な治療を受けることができるように、今後も継続的な取り組みが必要です。

## 全員参加のディスカッション（50分）

司会：清家正隆 先生

コメンテーター 荒川光江、所征範、遠藤美月、大河原均、成田竜一 香川浩一 各先生

清家先生

災害時の肝炎診療のトピックスが出ている

ニュースでも言われているが、大分大学の肝疾患のホームページに記載している。

副作用がないので治療を途中でやめないでほしい、服薬をやめることで再燃のリスクがある。B・C 型肝炎の知り合いがいる場合は声掛けをお願いしたい。

熊本大学の若手医師達が Facebook を活用して情報拡散を行った。

受検・受診・受療を皆さんにもおねがいしたい。

大分県の残りの 3000 人の C 型肝炎患者さんを掘り起こせるか。

テーブル①

厚生連

現状と課題を話す。

健診センターによく来てくれるが、受診していない人が多い。

がん検診の受診率が低いので頑張っていけないといけない

日頃の取り組みを見直す必要がある

したことがあるのか、プラスかマイナスか

清家先生

肝炎シールは、まず認識してもらう事を重要視した。三好では三好、白川病院では白川と場所場所で書いてほしい。主治医が手間を考えると書く所を少なくしたいのでこうなった。

医療機関にシールそのものの利用が進んでいないことが問題。何回も肝炎検査をしている人が多いのでまずその無駄を省きたい。

#### テーブル②

病院職員 事務担当など

シールは担当の先生に渡すがどう使っているかわかっていない。掘り起しでは電子カルテ上は確認できるが専門医でなければどこまでチェックするか分かっているかはわからない

肝炎治療では、副作用がない点をかならず患者さんには話している。

清家先生

肝炎シールは薬局に配っている段階！活用をどうしていくかはまだ確認できていない。

先生の机の上に置きっぱなしになっているのでは？是非患者さんはシールが好きなのでぜひ貼ってください。

使用方法のリーフレットがあるので活用してほしい。

香川先生のお話にもありましたが検査のやりっぱなしをなくしていきたい。

香川先生

全国的に検査結果を報告していない。大阪などでは検査はしたが結果を伝えていない。岡山では病院長名で後から手紙を出している。

#### グループ③

大分市の保健所小田原さん

電子カルテで状況が分かるので検査をしたときは DR から受診を促してもらおう。

肝炎コーディネーターから対象者がいればしっかりと話ができています。

住民レベルでは知らない人がまだまだ多いのもっと市民を対象にして啓蒙が必要。

陽性者にたいして電話連絡等をしているが、陽性の意味も分かっていないので個別の対応が必要と感じている。

清家先生

C 型肝炎は症状がなく、気付いていない人が多いので 3 か月で治るということを根気強く啓蒙を。治った人が未治療の方を連れてくる。受検から受療へ繋げることが大事。

#### グループ④

江藤内科病院

中津市の取り組みを一度聞いてみたい。職場の健診に行くが肝炎検査がオプションなので利用しない。

特定健診に組み込んでもらってある程度強制力を持たせることでより多くの患者さんに検査ができるようにする。シールですが手帳が新しくなればどうするのか？

清家先生

大分県と市の違いがあり、肝炎検査を一本化することが難しい。

オプションになっているのは介入が難しい。

肝炎検査の結果を主治医に聞いていいのかな？と思っている人が多いので主治医に聞いて欲しい。  
新薬は薬剤の相互作用が多いので、肝炎患者さんへ薬剤師が薬剤について説明する機会が増えていま  
す。そのため、医師と患者、医師と薬剤師の連携を深めている。  
手帳に貼るのが好きなので是非貼ってあげて欲しい。

#### グループ⑤

宇佐市役所 安部さん

健診機関、行政の方がこのテーブルには多かった。

病院では治療が大きく変わっている、受検の重要性を再度共有。

受診者へは肝炎受診もすすめているが、企業の方はやらされ感があるので参加が少ない。

病気の知識もまだまだなので啓蒙が必要。

清家先生

宇佐は肝炎患者さんが多い。

受検率には、地域差があります。

#### グループ⑥

江藤さん

企業体の健診に肝炎検査を組み込んでほしい。

若い肝炎患者さんに携わっていると、と若いうちに検査を受けて欲しいと思う。

県に依頼をしているがもっと検査を義務づけて欲しい

清家先生

本年 10 月からユニバーサルワクチネーションになります。生まれてくるすべての子供に、HBV ワクチンを  
打つことになります。これまでのやり方から大きく変わります。

治療対象者が、B 1000 人 C 3000 人残っています。

今年の市民公開講座は 6 月から各地でスタートする。C 型肝炎は治ります。

治癒した後が問題。

「ポスト S V R」が重要です。

コーディネーターの皆さんの活躍を期待しています。

次回は B 型肝炎をテーマに 9 月 8 日（木）に第 12 回実施。

シールの活用方法の改善方法をディスカッションさせてほしいです。